

校長の
リーダーシップ論

45

「種蒔く人」として
学び続ける茨城県立並木中等教育学校校長／
全国高等学校長協会教育課程研究委員長

中島 博司

研究ができる。2015年4月1日、茨城

県立牛久高校の校長室で、大きな机と本棚を前に私はそう思った。そして、「アクティブ・ラーニング」「次期学習指導要領」「二つの新テスト」の研究を始めた。

茨城県教育庁高校教育課での経験、取手松陽高校・水戸第一高校での教頭経験はたいへん勉強になったが、自らテーマを設定して研究することは十分でなかった。校長になり、研究する時間と場所が生まれ、スタートラインに立った自分を感じることができた。

アクティブ・ラーニング

まず、資料の収集を始めた。校長室の本棚は関係書籍・資料で埋められていった。そして、学校外でのインプットに努めた。とくに、東京でのアクティブ・ラーニング（以下

AL）に関するセミナーに頻繁に参加することにより、私自身が、アクティブラーナー（能動的学習者）に覚醒した。また、「二つの新テスト」については、当時文部科学省で開催されていた高大接続システム改革会議の傍聴を申し込み、三度文部科学省に行った。

現任校に異動した2016年には、ALに関して「AL指数」と「R80」を考案した。

「AL指数」とはALの実施率を示すもので、50分授業でALが10分間のときは「AL20」となる。これは、自らの授業を「メタ認知」する指標として考案した。

「R80」のRは、リフレクション（振り返り）とストラクチャー（再構築）のRである。具体的には、授業の最後に内容を振り返って再構築し、80字以内で書くというもので、必ず2文で書き、接続詞で結ぶというの

が特徴である。この「R80」は、「思考力・判断力・表現力」とともに「論理力」を育成することによって、ALを学力向上につなげることを目指して考案した。

さらに、2017年1月には「TO学習」を考案した。TOはTeaching Others（他の人に教える）の頭文字で、学年を越えた「縦割りの学び合い」である。これは、ALを深い学びに深化させるために考案したもので、現在本校で少しずつ実践を積み重ねている。

校長になって購入した研究関連書籍は100冊を超えた。現在も、頻繁に東京での各種セミナー・講演会に出かけている。私は、校長のリーダーシップの基盤は、「学び続ける自分の背中」を見せることだと考えている。

種蒔く人

最初の校長赴任校である牛久高校（1年間）でALの種を蒔いた。その種は、先生方・生徒たちの努力によって今、見事な花を咲かせている。本校でも、AL、ICT、CM（カリキュラム・マネジメント）などの種を蒔いている。さらにALについては、全国に種を蒔く機会を得ている。

昨年度と今年度の2年間、全国高等学校長協会の教育課程研究委員長として、AL等に

ポイント

- ☐ 「学び続ける自分の背中」を見せる。
- ☐ 「種蒔く人」として行動する。
- ☐ 「豊かな情報発信力」を持つ。

関する全国調査を実施し、その分析結果を東京での研究協議会や『会報』で発表している。また、各地の学校・校長会等に呼ばれてAL研修会の講師を務めている。2時間の研修会では、4人のグループ席で途中5種類程度のワークを入れ、ALを実際に体験していただいている。もちろん、本校での教員研修会講師や、全校生徒向けの「ALセミナー」も実施済みである。

このように、2015年4月に校長となり、研究をスタートさせた私は、とくにALの分野で、「種蒔く人」となることができた。校長のリーダーシップとして、「種蒔く人」として行動することも大切である。自らが蒔いた種が花開くのを見るのは、たいへん嬉しいものである。

いものである。できれば、得意分野のプロフェッショナルになり、自校以外にも種を蒔くことができるとうい。

並木ドリーム

私は、牛久高校時代に校長通信「牛久ドリーム」を発行し、学校ホームページ（以下HP）に掲載していた。A4判1枚で下約半分は写真である。学校行事等の内容を中心に書き、1年間で168号発行した。

並木中等教育学校に異動し、2016年4月6日から校長通信「並木ドリーム」を発行している。2016年度は1年間で200号発行した。HP掲載と校内掲示だけでなく、関係した先生方にも配付し、その功績を讃えるようにしている。『並木ドリーム』は誰に對して書いているのですか」と聞かれたことがある。私は「皆さん」と答えた。HPに掲載することにより、生徒たち、保護者の方、先生方、地域の方、全国の校長先生方等へのメッセージとなっている。

校長のリーダーシップには、「豊かな情報発信力」を持つことも必要である。私は、「並木ドリーム」という公式なもの以外に、茨城県内の校長先生・教頭先生方の希望者に「中島通信」を配信している。また、SNS

によって全国各地のアクティブラーナーともつながっている。

*

校長になり、約3年が経過した。現在58歳である。この3年間で、私自身がALによって覚醒した。AL研修会では、まとめとして以下の五点をあげている。それは①ALが授業をかえる／②ALが生徒をかえる／③ALで学力向上／④そして、ALで先生方がかわる／⑤さらに、ALで幸せになる」である。ALの目的は、アクティブラーナーを育成することであり、アクティブラーナーになると、毎日が明るく充実し「幸せ」になれる。

校長は、自分自身が明るく充実した毎日を送り、周りから、あの校長のもとで仕事をしたい、学びたいという思いを抱いてもらうことも大切だと思う。

私は、自校の発展とともに、「日本の教育の未来」のために、もう少し走り続けようと思う。20年後に日本の教育を振り返ったとき、「あの時が分岐点だった」と言われるであろうところに、今私たちは立っていると感じている。そのような時期に教育に携われる「幸せ」を感じながら、一緒にがんばりましょう。